

2015 年度 修士論文

高知県東部地域における自然災害マネジメントシステムを用いた

復興事前計画の有効性に関する研究

A study on the effectiveness of reconstruction pre-planning using the Disaster
Management System in Kochi Prefecture, eastern region

2016 年 2 月

主指導教官 五艘 隆志

副指導教官 草柳 俊二

高知工科大学大学院 工学研究科 基盤工学専攻

社会システムマネジメントコース

学籍番号 1187009 松本 洋一

1.4 研究概要

本研究論文は、8章により構成されている。図 1-1 に研究フローを示す。

第1章では、研究の背景として高知県における南海トラフ地震対策の現状と災害マネジメントシステムに関する既往の研究について述べる。

第2章では、高知県東部地域を研究対象とした経緯について述べる。

第3章では、宮城県牡鹿郡女川町の復興について、女川町ホームページなどに公開された情報や筆者が現地確認した状況をもとに整理する。

第4章では、高知県室戸市の現状と高知県が公表した南海トラフ地震による被害想定にもとづいて、地域課題を抽出する。

第5章では、女川町の復興状況を参考として、室戸市の地域課題をふまえた仮想復興計画を作成する。

第6章では、仮想復興計画に基づき、災害マネジメントシステム

：Disaster Management System (DMS) による復興スケジュールを作成する。スケジュールの作成は、瓦礫処理計画の有無、復興計画の有無、事前着手（地籍調査を含む）の有無に着目して4通りのシナリオを設定する。

第7章では、検討によって得られた事前対策の有効性について論じる。

第8章は、本研究によって得られた成果と今後の課題をまとめて結論とする。

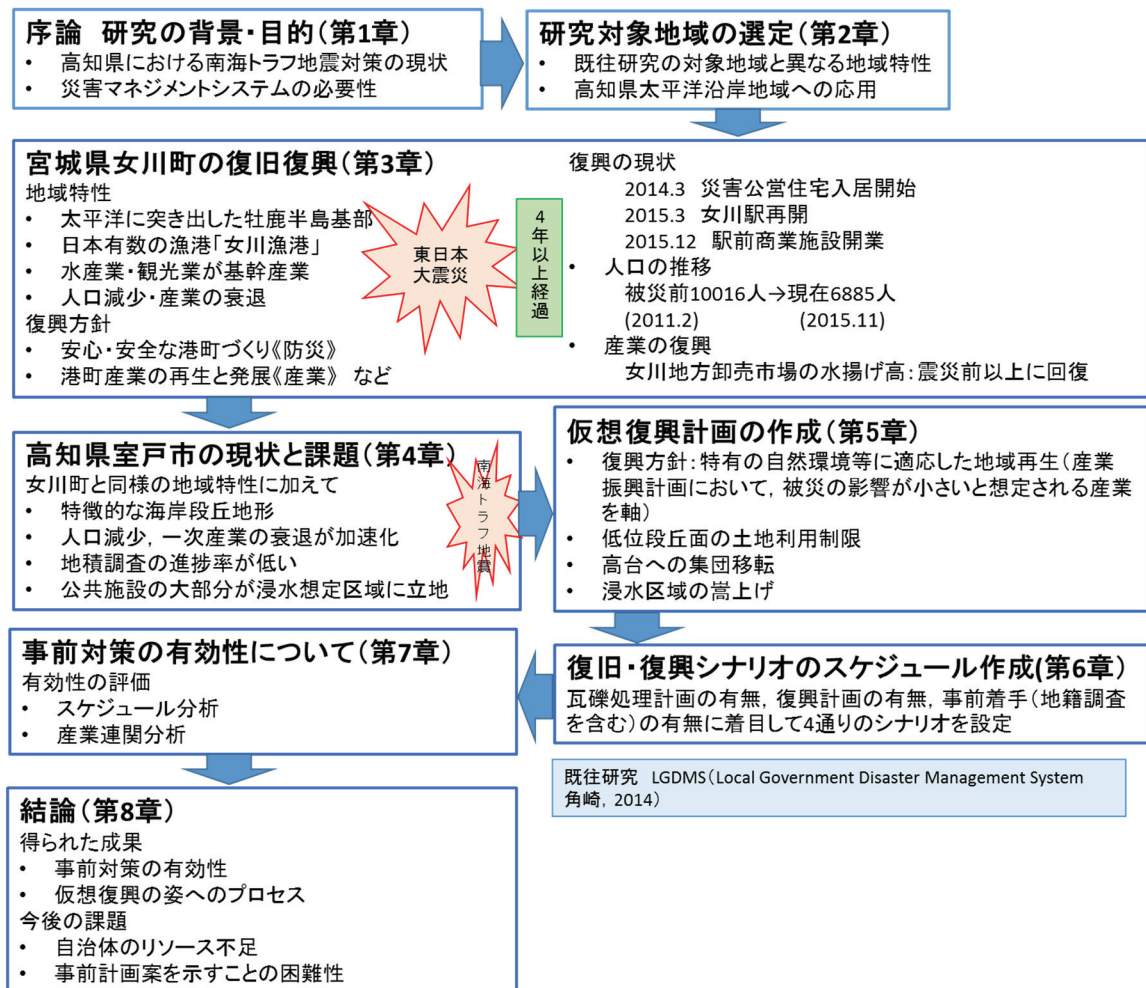


図 1-1 研究フロー